

2003年10月5日

淀川水系流域委員会  
猪名川部会 御中

千代延明憲

余野川ダム検討の前に  
検討すべき明らかな課題について

淀川水系流域委員会は、提言並びに意見書(素案)のなかで、ダムについて「原則として建設しない」「考えるすべての実行可能な代替案の検討のもとで……住民の社会的合意が得られた場合にかぎる。」としておられます。

それにもかかわらず、猪名川の銀橋狭窄部の開削に関して、なぜ余野川ダム建設の代替案の一つとして検討対象にされなかったのでしょうか。狭窄部の開削は行わないの大原則のもとに、木津川、瀬田川、保津川の狭窄部とともに銀橋狭窄部の開削まで検討からはずされたのはなぜでしょうか。

狭窄部上流が他の狭窄部と比較にならないほど開発が進んでいるという違いを除いても、狭窄部が極めて短く従って開削の工事に要する期間も短くかつ費用も小額で済むことに加えて、狭窄部開削に対応する安全度を損なわないための工事期間、費用も他の狭窄部に比較にならないものと考えられます。

従って、例外としてダム検討の前に、銀橋狭窄部の開削工事並びに下流部の安全度を損なわないために必要な工事のための期間と費用について、河川管理者に誠実に算定させていただきたいのです。その結果やむをえない場合にダムの調査検討に進んでいただくよう切にお願いいたします。

自ら「考えるすべての実行可能な代替案の検討」としながら、銀橋狭窄部の開削という切り札ともなりうる代替案の検討を放棄することは、絶対に止めていただきたいと委員各位の再考をお願いする次第です。

以上